長洲町立長洲小学校　校長便り　No.９８

# みんなの居場所

**裏面の話題**

**みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。**

令和５年６月１２日(月)

## 【徒然】運を味方に

よく聞く言葉「運が良かった（悪かった）。」結局のところ、運を味方にする人は、日頃の小さな行いの積み重ねができる人なのではないか。

例えば、挨拶はどうだろう。挨拶をする人としない人とでは、全く印象が違う。日頃から挨拶をして、印象が良い人に何かと関りを持ちたくなるのは、私だけではないと思う。関りだけでなく、「何かお手伝いすることはないだろうか。」とか「応援したい。」という気持ちになる。周りにそんな「支援者」が増え、そういうことの積み重ねが、総合的に考えて「運」になるのではないだろうか。

運を味方にする行動は他にもある。「笑顔」もその一つだ。笑顔そのものが持つ力は計り知れない。「挨拶」と同様に「運」を味方にできると思う。その他にも「時間を守ること」、「相手の気持ちに寄り添うこと」、「ルールを守ること」、「約束を守ること」…、運を味方にするためにやれることはたくさんありそうだ。こうして考えていくと、運を味方にするための視点をまとめると「凡事徹底」にたどり着く。

自分は運が悪いとか運命だから仕方がないとマイナス思考になる前に、自分のこれまでの姿を振り返ることが必要なようだ。私は若い頃、マイナス思考のスパイラルで卑屈な青春時代（みんなの居場所バックナンバー参照）を送った。そんな思考で、凡事徹底ができていない状態では、「運」など掴みようがない。

壁に突き当たった時ほど、普段の生活をしっかり送ること、凡事を徹底していくことが、運を味方にする近道の様な気がする。

## 【雑感】真面目さは認められる

ある日、担任させて頂いた教え子から電話がありました。進路決定の報告でした。東京都庁への就職が決まったとの連絡でした。彼女は玉名高校からの推薦で、国立お茶の水女子大学に進み、真面目に頑張った結果が今回の報告に繋がったのです。

彼女の印象として是々非々の考え方ができると共に、自分を客観視することができるという子でした。彼女が６年生当時、やんちゃな男の子たちに注意する場面が多かったのですが、その注意の仕方がすごいものでした。

「ねぇあんたたち、恥ずかしくないと？」

「それでいいと？」

「やんなくちゃいけないことはやろうよ。」

私たち教師がするような声かけを当時の彼女が行っていたのです。男の子達は彼女の前では黙るばかりでした。そういう司令塔的な役割、学級のルールや規則の番人的な役割をしてくれていました。

彼女の成長過程を見ていて感じたことは、「受験で高得点が取れれば良いということではない」、「一生懸命頑張っていればそれを評価する人がいる」、「努力が報われる」ということです。学力もさることながら、普段の生活態度、言動、人当たりも良かったですね。高校から大学へ推薦する場合、「この子なら大丈夫！」と太鼓判を押して送り出す訳ですから、真面目でない子や客観性のもてない子では推薦などできません。言葉遣い、身なり、考え方、部活、友達関係、欠席日数、健康、性格面、生徒指導上の参考事項…、数え上げたらきりがありません。一言で言えば、多くのことに真摯に取り組むことが大切なのです。最後に、私が経験的に学んだ真理、それはこうです。「真面目さ、真摯さ、謙虚さ、感謝の心を忘れたら、自分の可能性を潰す。」中学校からは特にそれを感じるはずです。小学校から、自分を律することが重要なのです。

## シリーズ「自分を語る」#９８

今日はカンボジアとペルーの研修先視察に行ったことに触れます。芦北町と九州産業交通です。

カンボジアの研修員、キンさんは学校の先生です。カンボジアを音楽教育によって立て直そうという志のある方でした。私も教師です、通じるものがありました。芦北町での生活に慣れた頃、芦北町国際交流推進室と、直接の研修先である湯浦小学校にお邪魔しました。湯浦小学校では、教育実習のような形で実習を行いました。ロンさんは音楽が中心の研修でしたので、常にピアノや鍵盤ハーモニカが傍らにありました。毎日練習をして、日本の童謡を数曲奏でることができる様になりました。それを、研修員発表会で披露し、感動を呼んだことは言うまでもありません。彼は、今でも熊本から持ち帰った鍵盤ハーモニカを大切にしているそうです。

ペルーの研修員、エリカさんはツアーコンダクターです。九州産業交通で研修しました。日本のツアー企画の良さについて学びました。さすがに日本国内だけでしたが、多くの観光地に向かい、そのサービスの高さや安全性について学んでいました。彼女は日本のツアーマネジメントについて学ぶとともに、ペルーの観光についてもプレゼンしていきました。帰国後、彼女はペルーの多くの観光地について日本の業者にＣＭしていました。現在、エリカさんはアメリカの青年と結婚して、ハワイに住んでいます。先日、メールが届きました。「澤田さん、いつかハワイに来てください。ハワイを案内します。熊本での生活はいつも忘れません。」と綴られていました。教え子達とのこのような交流が続くことに、喜びを感じています。

２名の留学生、６名の研修員は、私の大切な教え子です。私が担任している間、たくさんの思い出を作ってあげたいと考えていました。それぞれの研修先を相互視察しましたが、それだけでは物足りませんでした。思いついたのは、修学旅行。と、水俣の環境学習。です。熊本の小学校教師であれば、長崎への修学旅行は当たり前ですし、水俣での学習は世界の国々でも活きるはずです。我々学校教師はそのことを強く自覚する必要があります。

さて、平成２０年度の私の教え子８名達との水俣及び長崎の学習を企画し始めました。必要な手続きを終え、先ずは水俣市の視察へ。水俣の視察へは８名プラス、県のＣＩＲ、中国語とスペイン語の通訳、中国の国際交流員も同行しました。環境学習の拠点を見学しながら、併せて企業の取組も視察しました。歴史を教訓として市政に多くの取組がなされています。行政の施策として全市を上げて組織的に取組が為されているので市民の意識も高く、環境や人権に関する問題に正面から取り組み、発信しているという印象です。水俣は風光明媚な地域ですが、水俣病による偏見や差別によって、市民が分断されたという歴史があります。市民の絆を再構築する「もやいなおし」が展開される、多くの学びを提供してくれる場所です。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）